



学校だより

みどりの

学ぶ当事者 支える当事者 緑野小学校

- 考え伝え合う子
- 心豊かな子
- 元気な子
- やりぬく子

令和6年2月1日

素敵な笑顔のためには

校長 遠藤 昌司

ついこの間、新しい年を迎えたばかりのように感じますが、学校の一年はあとふた月、2月は「逃げる」ともいわれる忙しい時期に差し掛かりました。

緑野小学校では休み時間に生活委員会の児童が「ろうかは歩きましょう」などのプラカードを掲げて、全校に向けて呼び掛けをしてくれています。その活動を目にした時は「頑張っ
てアピールして！」と励ましています。時間に追われ、つい廊下を走ってしまうことは、いつの時代の学校でもありがちなことで、アスリート並みの疾走を見かけることもあるのは頭の痛いところですが、そんな中で急ぎたい、でも決まりは守らなければという葛藤した思いが伝わるような、精いっぱい早歩きをする児童を見かけることもあります。そんな姿を見ると、その健気さがほほえましく思えてしまいます。廊下を走らないことは怪我を減らすために必要なことです。児童一人一人にはその意味するところを考えてほしいですし、生活委員会には引き続き呼びかけを頑張してほしいと思っています。

今、6年生は卒業文集の仕上げをしているところですが、卒業文集について、今でも自分の中で印象に残っていることがあります。それは高校時代の友達の文章です。「笑い声」についての内容でしたが、「笑い声には色々ある。楽しいとき、嬉しいときに溢れ出るもの、遠慮しながら、中には人を嘲るものもある」というようなものだったと記憶しています。「仲間同士の笑い声は、もちろん、楽しく嬉しいときのものである」と続いていくその文章を読んで、果たして自分の笑い声はどんなのだろうかと考えさせられるとともに、仲間を信頼するその友達の心の広さを知ることとなりました。

昨年度も紹介しましたが、神奈川県は人権がすべての人に保障される地域社会の実現をめざしており、「みんなの個性で いろどる世界」とうたわれた新しい啓発ポスターが、校長室前に掲示してあります。今年度、緑野小学校は重点目標の一つを「相手意識：相手をよく知り 大切に」として、教育活動を進めてきました。人権尊重のために大切なこと、他の人の立場に立つ、伝え合い分かり合う、一方的な主張とならないようにすること、この3つのことが一人一人に備われば、誰もが安心して過ごすことのできる環境へとつながるはずで、自ずと楽しく嬉しい笑い声が溢れることになるでしょう。

今年の節分は2月3日。また翌日は立春で、暦の上では春となります。「心の中の鬼を追い払いましょう」とはよく言われますが、豆をまきながら邪気を払い、福を招いて、笑顔で春を迎えたいものです。